



2018年10月31日

各 位

会社名 千代田化工建設株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 山東 理二  
 (コード番号 6366 東証第一部)  
 問合せ先 主計部長 秋山 卓  
 (TEL 045-225-7745)

### 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

2018年5月11日に公表した2019年3月期の通期連結業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

#### 記

#### 1. 2019年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 400,000	百万円 11,500	百万円 12,500	百万円 6,500	円 銭 25.10
今回修正予想(B)	400,000	△86,500	△86,500	△105,000	△405.46
増減額(B-A)	0	△98,000	△99,000	△111,500	-
増減率(%)	0	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	510,873	△12,330	△10,100	6,445	24.89

#### 2. 通期連結業績予想修正の理由

現在遂行中の大型 LNG プロジェクト、具体的には米国ルイジアナ州のキャメロン LNG プロジェクトにおける約 850 億円の工事コストの大幅増加を主な要因とし、営業利益が前回公表値から 980 億円減の△865 億円、経常利益が 990 億円減の△865 億円となる見込みです。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は、上記理由に加え、繰延税金資産の取り崩しによる法人税の負担増もあり、1,115 億円減の△1,050 億円となる見込みです。

キャメロン LNG プロジェクトについては、ジョイントベンチャーのパートナーである米国マクダーモット社と共同で、2018 年 8 月より改めて工事遂行プランの見直しを行ってまいりました。この過程において、原油価格上昇に伴い米国でのシェールガス開発が再開されたことや 2017 年夏にメキシコ湾岸を襲ったハリケーン・ハービーの復興事業が今年になって本格化し始めたことに起因して、2018 年初頭から深刻化した現場作業員、特に技能工の不足が今後も続く見通しであること、それに伴い人件費が大幅に高騰していること、更にその一方で、建設現場が市街地から非常に離れている不便性などの特殊事情から作業員の定着率が極めて低く、2018 年 4 月頃までは一時的に改善していた現場工事の生産性が 5 月以降は再び低下し始めたことなどが明らかになりました。この結果、現場作業員人件費を含む今後の工事完成までに要する工事コストを改めて厳格に精査した結果、大幅な費用の増加を見込むことにしたものです。

3. 期末配当予想の修正

	年間配当金	
	期末	合計
前回予想 (2018年5月11日)	円 銭 7.50	円 銭 7.50
今回修正予想	0.00	0.00
前期実績(2018年3月期)	7.50	7.50

4. 配当予想修正の理由

当社は、2017年8月に公表した中期経営計画「未来エンジニアリングへの挑戦」における株主還元方針のひとつとして、1株当たり配当6円/年を下限と設定し、2019年3月期においては1株当たり配当7.50円を予想しておりました。しかしながら本業績予想の修正に伴い、中期経営計画でお示しした株主還元の実現は困難と判断し、誠に遺憾ながら無配の予想とさせていただきます。

(注)見通しに関する注意事項

この資料に記載されている業績見通しは、種々の前提に基づく将来の予想であり、実際の業績は様々な要因により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。従いまして、これらの見通しのみにより依拠した判断をされることは控えるようお願いいたします。

以 上